



ここで紹介する2冊の
本は、**新着本**です！

難民のこと、
少しでも知ってほしい
です。

「わたしは13歳、シリア難民。」(認定NPO法人国境なき子どもたち・編著)

この本は、戦争がどんなに残酷で、それを体験した子どもたちがどれだけ痛みを抱えながら生きていくのかを描いているのではありません。ヨルダンで避難生活を送る子どもたちが、学校で友だちとサッカーで遊んだり、国境なき子どもたちのスタッフと工作を楽しんだりしながら、将来の夢を見はじめる、そんなエピソードがたくさん詰まっています。
(「おわりに」より)



家を追われた人びとは、国内外に
1100万人ともいわれる
シリア紛争。21世紀最大の
人道危機の中で子どもたちは――

「世界中の子どもの権利をまもる30の方法」(国際子ども権利センター・甲斐田万智子・編)

(「本の紹介文」より)

「未来は子どもたちの手に」って、よく言われますが本当でしょうか？ おどろくほど過酷な状況に置かれている子どもたち。何かできることは？ と思うなら、まずこの本を。できることがありそうです、あなたにも、わたしにも。



＜内容紹介＞

- 子どもたちが直面する問題を解決する30のアプローチ。
- 子どもと学ぶ！ 国際理解・権利学習の入門書。
- SDGs(持続可能な開発目標)を実践的に学べるヒントが満載。

世界で一番美しい鳥図鑑 (すずき莉萌 編著)

野に生きる鳥たち、
その美しいこと！
おすすめの写真集。

本の中をのぞいてみると、

歩く

鳥は、地上を歩いて移動することもある。多いものです。外敵から身を守るために鳥は空を飛べるようになったといわれていますが、飛ぶためには多くのエネルギーが必要です。

チドリは「チ鳥足」と呼ばれる酔、払いのフラフラした歩き方をすることで知られますが、それはヒナのいる巣に外敵が近づいたとき、親鳥が自ら傷ついたふりをして敵の気をひきつけ、ヒナから遠ざけるための迫真の演技なのだとか。



自然の中に生活している鳥を大切に、守ろうという思いがめられた「愛鳥週間」(5月10日～16日)鳥のコーナー、図書館を作りました。その中より、紹介します。

集う。

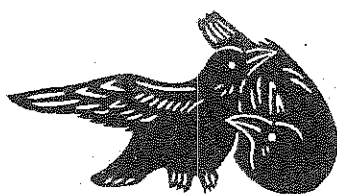
ほとんどの鳥は大なり小なりの群れをつくり、仲間と共に行動します。興味深いことに、基本的に、鳥の群れにはリーダーは存在しません。群れの中にリーダーを置かないことで、危険をいち早く察知し、機敏に行動して互いの命を守っています。

(「はじめに」より)

この本では、カラスの実態を科学的に紹介するとともに、カラスとヒトがこれからどのような関係を築いていってほしいのか、ということまで提言します。

カラスとかしこく付き合う法

杉田昭栄
Sugita Syo-ei



本の中を、ちょっとのぞいてみると...

〜カラスも役に立っている〜
カラスも役に立つことなどあるのでしょうか。たとえば、カラスは害虫を退治しています。田んぼのバッタやイナゴなどを食べています。また、交通事故にあい、腐食しはじめたほ乳動物をきれいに片づけるのもカラスの役目です。